

平成 29 年度 第三回第 1 層協議体 会議議事録

日 時：平成 29 年 9 月 25 日（月）14：00～16：00

場 所：パルテノン多摩 第 1 会議室

出席者：	高齢者福祉に関する社会福祉法人の職員	鶴岡 哲也
	社会福祉法人多摩社会福祉協議会の職員	川田 賢司
	公益社団法人多摩市シルバー人材センターの職員	伊藤 芙美子
	高齢者福祉に関する NPO 法人団体の構成員	伊藤 玲子
		杉本 依子
		寺田 美恵子
		藤咲 憲子
	消費生活協同組合の職員	茂木 利信
	生活支援サービス又は介護予防サービス関係企業の職員	
		園部 裕樹
		渡辺 桂祐
	保健福祉関係者	近藤 一美
	自治会又は管理組合関係者	藤井 富男
	医師会関係者	田村 豊
	地域包括支援センターの職員	淵野 純子
		梶淵 正
	介護予防による地域づくり推進員	桐林 亜希子
司会：	第 1 層生活支援コーディネーター	田中 千秋
出席オブザーバー		
	公益財団法人さわやか福祉財団	丹 直秀
	第 2 層生活支援コーディネーター	森田 一光
		畔上 なつ美
	独立行政法人都市再生機構の職員	山本 実
	生活支援サービス又は介護予防サービス関係企業の職員	
		神南 美和
	多摩市職員	水谷 正恵
		山田 洋子

（開会時刻：14 時 00 分）

開会

司会

只今より、平成 29 年度第三回第 1 層協議体を開催する。皆さんお忙しいところ、お集まりいただき御礼を申し上げる。短い時間となるが、今年度もこうして全体で集まる機会もあと

残り3回となった。本日は、分科会の活動のそれぞれの発表を頂き、全体の意見交換をお願いできればと思う。まず、資料の説明をさせて頂く。ホチキス止めの資料、第3回まるっと協議会資料スライドのA4版資料、社会福祉協議会からの資料、ヤマト運輸さんの体験イベント 出歩き促進事業についての資料。続いて本日の委員について。老人クラブ連合会 金光代表が明日開催のグランドゴルフの事前準備のために欠席、多摩市役所伊藤課長、田島係長が急きょ欠席の連絡を受けている。高齢支援課からは、水谷さんと山田さんにご出席頂いている。オブザーバーとして前回に引き続き、丹先生にお越し頂いている。今回から、委員が変更している方がいるので紹介する。多摩市シルバー人材センターと、多摩市民生委員協議会の2団体です。それぞれご紹介させて頂くので、ご挨拶頂ければと思う。まずは、民生委員協議会の近藤さんお願いしたい。

出席者

民生委員協議会から、伊藤会長の後任という事で、すごい大役を仰せつかった。皆さんとともに少しでもお役に少しでもたてれば、そして色々と勉強させて頂ければという思いで参加させて頂きたい。どうぞよろしく願います。

司会

では、次にシルバー人材センターの伊藤さん、ご挨拶をお願いします。

出席者

伊藤です。シルバー人材センターの局長代理として参加させて頂くが、こうした事に全く慣れていない。普段はシルバー会員として就業としてる。色々と勉強する事が多く、一つ一つ皆さんのお話を伺い、会員へ伝達したいと思っている。どうぞよろしく願います。

司会

URの追川課長が欠席という事で、代理で山本様が出席されている。それでは本日のテーマ3の、コーディネーターの報告へ移らせて頂く。分科会からの報告までで1時間、その後全体の意見交換などで1時間程度とさせて頂く。まずは、1層のコーディネーターからスライドでの説明をさせて頂きたい。こちらに注目願いたい。まず、コーディネーターの活動について報告させて頂く。前回の全体会から3カ月が経過した。活動内容は1-5の資料となる。多摩市からマイライフ包括支援協議会へ生活支援整備事業を委託したという事で、関係各所への御挨拶を行なった。事業は1番の、訪問Bの生活支援サポーターの養成講座、担い手の掘り起こし、外出体験イベントでの同行支援研修等、計画している。皆さんに参加頂いている分科会の開催、資料の作成などの事務局業務や、地域包括支援センター代表者会議への参加、情報を収集している。第2層コーディネーターと多摩市との打合せをおおよそ月に1回のペースで行っている。たま広報、タウンニュースなどでも、コーディネーターが配置された周知を行った。一方で地域資源の把握、課題の整理までは至っていないとの感想を持っている。続いて東京都の生活支援コーディネーター研修に、2日間参加してきたので、そちらの報告に移らせて頂く。他の自治体の生活支援体制整備事業がどのような状況になっているのかなどご報告させて頂く。他自治体の生活支援体制整備事業は、第1層のコーディネ

ーターの配置は5割。協議体もそれに合わせて6割程度設置されている。第2層の協議体の設置が4割程度。第2層に比べて第1層の協議体の設置が進んでいる。東京都の場合は中間支援組織からコーディネーターを配置している自治体は少なく、主に社会福祉協議会やボランティアセンターなど、もともと福祉など地域に密着している方々が業務と兼務という形で、第1層コーディネーターを受けているところが多い。文京区を取組をご覧頂きたい。社協が第2層のコーディネーターを受けており、8名の方々が支え合いの仕組みに取り組んでいる。中心は居場所づくり。1年かけて地域住民と話し合いながら、居場所を中心に支え合いの仕組み作りを行っている状況。面白いと感じたのは、サロンと言っても色々な機能を担ってもらうような試みがあること。項目別に10種別ほどがあり、生活支援などの活動を含めて、4から5種の活動が出来るサロン、団体は中機能型として位置づけ、助成金を増やし支援をしている。同時にサロン・居場所の立ち上げを支援している。続いて、武蔵村山市を取組をご覧頂きたい。こちらは、逆に第1層協議体はあるが、第2層協議体がないという状況。武蔵村山の「おおみなみサロン」をモデルとして地域でのサロンづくりと、第2層協議体の展開を計画。高齢者が行ける範囲にサロンを作っていこうという計画があり、同時に担い手を養成するリーダー講座を開催。15名程度が養成講座を修了し、その後サロンの企画運営として携わり支援を行っている。2025年までに75か所のサロンを増設しようという計画のもと、取り組んでいる。最終的には歩いて通える場所に居場所を作ろうという、居場所づくりがメインで支え合いの仕組みを作っている。丹先生、何か補足はあるか？

出席オブザーバー

さわやかとして色々な自治体の動きを支援している中で、武蔵村山市にも関わっていた。リタイア、もしくはこれからリタイアという方がたくさん出てくるのが予想される場所。首都圏周辺部はこれから急ピッチで高齢化社会が進んでいく。課題が多い一方で、首都圏地域は元気な高齢者が多い担い手もたくさんいるという事を理解して頂き、その強みを生かしたことが出来ればと思う。

司会

第1層コーディネーターからの報告は以上となる。

何か、ご質問などあるか？

第2層コーディネーターからのご報告をお願いしたい

出席者

第2層は社会福祉協議会が受けているという事で、ご報告させて頂く。第1層からもご報告があったが、1層とは月1回ほどのペースで打合せを行っている。現状では地域課題把握・資源把握などは実質的なところは出来てない。社会福祉協議会がすでに持っている資源の中で、地域福祉推進委員の活動ではかなり動きがあった。その中では以下ご紹介させていただく。連光寺・聖ヶ丘では桜の丘学園の生徒さんが、知的障害のある方々だが、地域の方々のお買い物のお手伝いという事で荷物運びなどを行った。今後は学校のカリキュラムに取り込み行う予定との報告を受けている。地域との連携がシステム化されるかなと感じてい

るところ。和田・東寺方・百草地域では百草団地が中心となっているが、特別養護老人ホームの愛生園さんが、地域の方とのお食事会を月1回程度という事で企画、行われている。こちらは地域の期待も大きく今後定例会を予定している。貝取・ニュータウン地域では、恵泉女学園大学とコラボレーションして、恵泉女学園大学が園芸中心という事なので、園芸とコミュニティという切り口で、地域の方にも園芸や植栽などのお手入れなどを、地域で行っていきましょうという動きがある。コミュニティセンター付近に貝取小学校があるので、その場所で園芸を通じてのコミュニティづくりに力を入れている。土いじりとなると高齢者にもプロフェッショナルも多くいるので、結果的に園芸を通じてのたくさんの切り口が生まれる。以上が地域福祉推進委員から報告で上がっている。資源をうまく拡大できればいいなと感じている。第2層という動きではないが、ご報告させて頂く。詳細は担当のコーディネーターがいるので、補足をお願いします。

司会

川田事務局長ありがとうございました。森田さん・畔上さん補足があればお願いします。

出席オブザーバー

補足という事ではないが、9月から本格的に始動という事で、各エリアで防災の切り口だったり、事務局長の川田の報告のような活動が行われている。田中さんからの他自治体の報告もあったサロンだが、多摩市のサロンは82か所ある。居場所の説明もあったが、サロンは月1回ペースで行っている。見直しや介護予防の活動と一緒になったりして、週1回のペースに上げられるところはあげて頂くように動いている。

司会

地域包括支援センターとの、連携の動きについてご説明頂きたい。

出席オブザーバー

地域包括支援センターのからみの部分。今年度7月末から高齢支援課と関係専門職種を含めた形での自立支援型の地域ケア会議を開催している。月に2回ほどのペース。今、検討しているケースは、新規のみなしを利用する予定の方々に対して、自立支援型の地域ケア会議を実施するというところ。主にはその対象者の自立に向けてというところで、予後予測を含めた形でどの様な支援を行っていくのが良いかをそれぞれの知恵を出し合って検討させて頂いている。その協議の中で地域の課題は何なのか？この地域に不足している資源は何なのか？も議題に上がってきている。そうした課題をこちらの協議体で報告できたらいいなと考えている。

司会

中部地域包括支援センターの淵野さん、北部地域包括支援センターの柘淵さんも参加されているので、地域の課題などについては、議案として挙げて頂ければと思う。最後の報告になるが、ヤマト運輸さんから、体験イベントについてご報告をお願いしたい。

出席者

お手元の資料の通り、出歩きの為の体験イベントを弊社で用意している。詳細はイベントを

担当している神南から報告させて頂く。

出席オブザーバー

ヤマト運輸の神南と申します。お手元の「出歩き楽しみ体験イベント」のチラシをご覧頂きたい。ネコサポで1年半あまり、生活支援窓口を行ってきた。買い物・家事などの代行をやっている中で、買い物に行きたいがいけないという声があった。ネコサポを展開している地域が30年以上たっている団地という事と、歩車分離という立地もあり、バスは走っているが、バス停まで行く距離や階段などが不安となり、なかなか出歩きにくいというところ。実際にバスに乗りたいのでバス停まで荷物を持って一緒についてきてほしいなどの要望を受け、一部サービスを行っていた。そうした中で何かご支援できないかと考えていた。多摩市の中に、健康まちづくり推進事業という事で、ここに関して高齢者を中心に、何か出来ることがないか、実証実験にて住民の方々の意見を伺う事にした。内容としては、10月の1か月間、毎週火曜日と木曜日に、介護予防を目的に実証実験を行うので、聖蹟桜ヶ丘・多摩センター両駅の周辺に会場を用意し、介護予防につながるイベントを開催（健康体操・歌声教室等）・企画し、そちらに高齢者の方に来ていただく。参加条件としては、本来であれば、多摩市全域で行いたいですが、今回は実証実験でなかなか難しいという事で、ネコサポ付近の貝取・豊ヶ丘・永山・諏訪の地域にお住いの65歳以上の方で、要支援1・2で、自立歩行の可能な方を対象に募集を行っている。なかなか出歩けない方を中心にお声がけを行っている。スタッフや訪問Bの生活支援サポーター、見守り支援員の方などの協力も入れて、イベントに参加頂き、日頃できないお買い物なども行っていただき、持ち帰りなどもサポートさせて頂く。そのあたりでの課題などをヒアリングして次につなげていけたらと考えている。既に募集を行っていて、空きがまだあるので、お問い合わせいただければと思う。訪問Bのサポーターの方に、訪問先での見守りなどを行っていただく予定。アンケートなどにもご協力頂いているので、何とか結果が見えてくれば良いと思う。

司会

それでは、次に分科会の発表に移る。それぞれ月1回程度で分科会を行っていただいている。リーダーの方にご報告をお願いしたい。

居場所の寺田さんから願する。

出席者

参加者は記載の通りである。まず第1回目の方向性という事で説明させて頂く。協議体としての居場所、場作りとはどんな事か？どう事業に位置付けていくか？実現の道のりの探り方、各団体の活動継続、こうした事について重点的に協議した。また日常生活支援の機能をもつ「居場所」についてという事だが、私の考えが色濃く反映しているかもしれないが、今のサロン・居場所は介護予防に中心をおいていると感じる。もし居場所分科会として、今年度の活動の方向性をどちらに負荷をおくかという事になれば、支援の機能をもつ居場所という所を考えている。課題としては、「居場所としてつくるものは」という事で、コミュニケーションがとれる場づくり。既存のサロンは月1回の開催からとして、要望と必要性があ

ればさらに週1回開催できる仕組みづくりの協議していきたい、それには、人・資金・場所などの検討が必要。なかなか、居場所を作った時に、大きな補助金を得ることは出来ないの、なんとか人とか金に代わるものがないか？ボランティアポイントなどの制度を使ってカバーするのはどうかという話が出た。居場所の周知、サロンを含めてだと思いが、関心があったり、必要がある方々に情報がしっかりと届いているのだろうか？という所。居場所の周知にはどうしたらいいのか？分かりやすいマップ作りが例として上がっている。移動との組み合わせも考慮というのは、ネコサポさんの実証実験のようなもの、まず居場所に来ていただき、そこから買い物支援に移行するといった取り組みが出来ないか？という提案があった。状況把握・意見交換として、通所Bとしての居場所やサロンなどの拡大、多摩市としては一応の目安として人口比157か所という目標を掲げられている。現在は82まで広がっているというお話があったが、残り70数か所という所になっている。ただ、数を増やすだけではなく、住民にとって「拠り所」となるにはどうしたらいいのか？についての精査も次第に必要なのではという意見が出された。開催頻度・介護予防体操を増やすとしたら・お食事などは要望が多いが、提供についてもどうかとの意見が出た。検討内容の細かいところ、現状の介護予防機能にプラスして、生活支援の観点に加えていけるのか？今あるサロン、これから開催が予定されているサロンで何か出来ることはないか？というところ。各サロンで介護予防の観点から「体操」を増やすにあたっての課題、とっかかりやすい、高齢者と関心の深い、介護予防体操をまず手始めにおこなったらどうか？という意見があった。それから、先程申し上げたサロンでのお食事の課題、サロンでの食事提供による、開催負担の軽減をするには？喜ばれるのはわかっているが、負担が大きい。食事提供の為にはどうしたらよいか？次に、「介護予防からの広がり」について。これは、居場所分科会の中にNPO法人が入っているの、その現状を伺い、提案して頂いた。重複するが、生活支援の観点での取り組み、要支援の方が介護予防で外出してもらってのそこからの生活支援など。自然の広がりが大切。支える側の意見だけではなく、利用者の興味や希望に添えるプログラムなどを用意出来ればいいなと感じた。1回、2回の話し合いを踏まえてまとめさせて頂く。サロンなどの開催回数を担い手・利用者ニーズにより増やす、食事提供を月1回から回数を増やす、お食事の提供負担であれば、あるいは、お弁当などの即時提供の仕方の提案。居場所と移動の連携を図る、という事については、何度も説明しているが、訪問Bとの連携、付き添いの支援、ボランティアポイントの活用など、このような所で連携を図れたらという意見が出た。ボランティアポイントの活用仕組み作り、こちらについては各サロン活動に興味がある人、参加する人も担い手もどちらも、その両者に届くように仕組みづくりが必要。どういう仕組みであれば届くのか？例としては地図や小冊子を作成する等の意見が出された。冊子作りで地域の必要な方にどんなサロンが、どんな場所にあるのか、居場所・サロンの見える化が必要だ。実態調査結果に伴う、検討課題の抽出について、私が感じたのは、本当に地域のサポートが必要で要支援1・2の方々は、数字としては低いので、安心してはいけないが、まだまだ準備の時間はあるなと感じた。続いて提案に移らせて頂く。検討課題の整理

1. 介護予防と生活支援の枠組みの整理、2. 必要な居場所サロンの数の検討、3. 望ましい居場所サロンの開催回数とその方向性、4. 要支援1・2を越える介護予防者の支援のありよう。専門職との連携というのは、いつも上がるが、個人情報との壁があり、どう乗り越えるのかという話になる。5. 必要な人への周知、これに関しては、地図や冊子作り等。地域連携について、今までも居場所サロン・包括・地域住民の連携というのは言われてきた。本当のところの支え合う地域づくりというのは、地域住民と地域住民が緊密な連携が必要なのではないか？これが、私たちの目指す支え合いの仕組みではないかと感じているので、この辺りをまた皆さんで作っていただけると感じた。

司会

ありがとうございました。先にすべての分科会の報告を終えてから、質問とさせて頂きたいと思う。次に移動の分科会の報告をお願いします。

出席者

移動の分科会の報告を行う。参加者は資料をご確認頂きたい。検討した内容、7月18日と8月22日の2回行った。一回目は移動支援の情報共有を行った。昨年とはメンバーが変更となったので、これまでの状況について説明した。前年度は前回の協議体では報告したが、移動が制度「道路運送法」法律の問題があり、みなさんに資料でお渡ししたが、そのあたりを勉強しようという事で、皆さんと勉強をした。これが昨年度まで。次に課題の洗い出しを行った。多摩市らしい移動とは何だろうと話し合った。集まるまでは、車だろうと考えて集まったが、多摩の場合は、エレベーターがない団地などもあり、上下移動、坂道移動、歩道車道の分離など住居のそばまで車が入れないという問題があり、その様なことも含めて多摩市らしい、多摩の人が必要としている移動の仕組みを考えてみようという事で話し合いを行った。訪問はABCDとあるが、現在、全国で移動が取り入れているサービスの中ではBの中で、その他の生活支援の一つとして移動の仕組みづくりをしている、独立して移動だけでサービスを作る、その他、通所と組み合わせるという所も出てきた。多様な移動を組み立てていく事が必要、多摩らしい移動を検討していこうという事で話し合った。2回目は8月22日に開催した。この時にヤマトさんの先程説明があった、出歩き楽しみ体験イベントの企画をお話いただいた。ヤマトさんが多摩の方々の移動についてもいろいろと考えて頂き、前向きにやってみるという事に協力することとなった。この時には具体的に決まっていなかったが、そんな中で、移動分科会として何が一緒に出来るか、という事で意見を出した。その中で、将来的には自宅までお迎えに行った際に、階段の部分などの同行など、多摩市ではそうした事を必要とされる方が出るだろうから、サポーターなどの付き添いという話も出た。ただし今回は間に合わないの、そちらはヤマトさんがご対応されるという事になった。現在私は訪問Bの事業所として指定を受けているが、多摩市の場合は、訪問Bではあるが介護保険に準ずるという所で、同行は身体介助にあたるので、ご依頼はあるが、ご依頼に沿ってサービスを提供できないという状況にある。将来的にこの辺りが出来るようにしなければ、皆さんがご不自由に感じるだろうなと思っている。ヤマトさんへの今回

のイベントへの協力として、訪問 B の生活支援サポーター研修を受けている方は約 134 名いらっしゃるが、この方々に声かけを行い、同行の為の研修を受けて頂き、現地で同行して頂くという事になった。内容については高齢者疑似体験も取り入れるという事で意見を共有した。参加者については、出来る限り要支援 1・2 の方で、お元気な方でバスなどいつでも外出出来るという方はご遠慮いただくという事で伺っている。次回からの移動分科会で、どんなことを行うかという事についてだが、市役所の方は多摩市の状況を分かっているが、それ以外のメンバーとの情報共有ということで、地図を広げて、地域によって移動困難地域を、地図を使用して洗い出しを行う予定となっている。下半期の移動支援検証というところでは、ヤマトさんのイベントと情報共有もしていきたい。次に、平成 30 年から の介護保険計画が第 7 期に入るが、この中に多摩市として移動が入ってくると思う。多摩市の移動モデルというのを検証するための計画づくりを分科会で考えていきたい。3 番目について、先程話の挙がったサロンは通所の B にあたるが、冊子を作っている全国の中間支援団体が、今ヒアリングを行っているようだ。今回、通所の A に B を組み合わせたタイプが登場した。社会福祉法人がやっている通所の A に地域のボランティアの B がくっついて移動を行うというもの。多様な移動がまだまだあるなど感じる。4 番目。次回、地図を広げて移動の詳細を調べるが、もし移動がとて難しい地域があった場合、いかに住民の方と一緒に移動を意見交換していくのか。住民の方々を巻き込み、自分たちの助け合いとして移動を考えていって頂くのかというところが大切。

司会

ありがとうございました。では、次に生活支援・見守り分科会からの報告をお願いしたい。

出席者

生活支援・見守り分科会の報告を行う。参加者は資料をご覧頂きたい。生活支援・見守り分科会は 7 月 29 日と 8 月 30 日の 2 回、開催した。今年度初めて生活支援・見守り分科会を開催したので、最初に生活支援・見守りについて、色々な団体や企業がどんな事を行っているのか、情報交換として取組の報告を頂いた。その中で生活支援・見守りの試験的な活動を取り入れていったらどうか、訪問 B について、実際みなしのほうに多く訪問 B の利用者が行っている状況で市からも自立支援型の報告があったが、訪問 B が使いづらいのではないか。また使うにしても事業者の請求作業が大変ではないか。サービスの課題についての整理が必要ではないか、という事が上がった。第一回の分科会での意見交換として訪問型サービス B の利用状況は 10 件で、サポーター数は 134 名いる。地域によって差がある状況にある。民間および事業所のサービスについて、ヤマト運輸さんでは地域でも居場所づくり、イベント等色々な取り組みをされている。たすけあいワーカーズつむぎさんも、ゴミ出しの時間帯に、ヘルパーさんが時間を調整頂いたり、生協さんは何か異変があった時にご家族への連絡を入れる見守りを含めたサービスを展開している。市としては認知症の見守りキーホルダーや、ALSOK さんの見守りサービスがなかなか伸びていかないという話も出た。過去、諏訪地域での「ちょこっとボランティア」を試験的な取り組みで行ったが、1 時間 300 円という

事だったが、実件数は1件しか要望がなかった。実際のニーズは多いのだが、この1回300円が高かったのではないかと意見や、一方で「ちょこっとサービス」のようなサービスは地域包括支援センターとしても必要という意見もあがった。民間事業サービスと、住民の支え合いのサービスの棲み分けについて、やはり専門的な技術や機器を使用するもの（芝刈りなど）、組合員さん同士の見守りなどの話も出たが、組合員さんだと気が引けるなどの意見もあり、そうした方には、しがらみのない民間サービスの利用が有効との意見が出た。

二回目の分科会での意見交換では、特に見守りの観点から、永山の見守り相談員の木下さんからご報告頂いた。実際に来訪者は多種多様な相談、1日20～30名程度、何気ない会話の中から相談案件があるとの事。見守り協力員を必要としている住民の方は現在の所4名程度との事。京王電鉄の移動販売について、一拠点20分程度の滞在、今後は相談なども組み合わせたらという話も上がったようだが、現在は軽自動車との組み合わせも検討されているようだ。取り組み当初数名が集まる程度が、現在ではかなり賑わうようになってきているようだ。地域住民が主体で既に取り組みを行っているものを私達は把握できているのか。例えば、「ちょこっとサービス」も既に民間の地域住民で行っている所があるのではないかと。そうしたりサーチが必要ではないか。人数の把握とサーチが必要ではないか。実際、住民同士の話し合いの場を作ることが大切なのではないか、などの意見があった。さわやか財団の丹先生からも、10～20名程度の少人数の集まりが必要なのではないかとお話し頂いた。提言・継続的な取り組みとしては、まだまだ要支援に該当する方々を支える仕組みが見えていないのではないかと、支援者側も知らないのと、そうした仕組みを生活支援がどうした所で、どのように行われているのかのマップの作成が必要だと考えている。昨年度市で作って頂いたものに、もう少し支援者側、例えば社会福祉協議会の職員、ケアマネジャー、地域包括支援センターの職員・市の職員などの情報を加味した、市民向けのマップの作成をしたらどうか。市民が見て、それを活用することが大切。市民側のマップ、それも字だけでは分からないので、写真なども盛り込んだ分かりやすいものが必要。二番目としては、せっかくサポーターの養成講座を行っているのに、サポーターさんの活躍の場がないという現状がある。今回は移動の試験的な検証にお手伝いいただけるという事だが、サポーターの養成講座の後に活躍の場を検討できないか、という声が上がった。3番目としては、地域住民・地縁組織・自治会・管理組合などの、現場の声、生の声をリサーチしていく。地域福祉推進委員会でも、色々なワークショップが行われており、またシルバーさんでも昨年行われたワークショップからの声などもリサーチしたらいいのではないかと、との声が上がった。現在行っている「永山モデル」の中で、永山地区に限っての連絡協議会が行われていたりするので、そうしたモデル事業を行ったらどうかという声も上がった。

司会

ありがとうございました。続きましてイベント分科会からのご報告をお願いします。報告の前に、概要・決定事項を先にご説明させて頂く。参加者は資料の通り。イベント分科会は4回開催している。イベント概要としては1月28日（日）関戸公民館ヴィータホールにて開催

予定。委員のみなさま、ご予約おき頂きたい。こちらのホールを使って生活支援体制整備事業の、市民向けのイベントを開催する。協議体のメンバーの方はご理解いただいていると思うが、去年はさわやか財団の堀田先生にお越し頂き、午前中に第1部として「支え合いの仕組み作り」のシンポジウム、午後に第2部として「健幸甲子園」NPOなどの団体さんの活動を紹介するという1日使った開催となった。地域ふれあいフォーラム TAMA との同日開催という点も、昨年と一緒となっている。まだ案の状態だが、1部は基調講演で2部が支え合いの事例紹介などを予定している。地域で既に支え合いを実践されている方からお話を頂いた後、土を通じて地域との交流している団体の取り組み発表を考えている。1月28日(日) 午後の当日は皆さんにも役割をお持ちいただきたいと思います。人手も必要となるので、受付等のお手伝いをお願いしたい。その他、田村先生から補足があればお願いしたい。

出席者

まるっと協議体の中でのイベント部会の役割という事で、そもそもまるっと協議体はどういった役割を担って、どこを目的に活動しているのか、という事を見据えた時、一人で生活していく事が困難になってきている人たちを支える仕組みを作りましょうというのが居場所だったり、移動サービスだったりという事になると思う。もう一つ、そこに至る少し前の段階、今はまだ元気だが、この先誰かに支えてもらわないと生活していく事が難しくなってしまう人たちを、どのように元気高齢者のままこの多摩市で生活していただくかという事について、いろいろ考えたり助言したりという事も、この協議体の組織の役割だと考えている。イベントの中身も前半は実際に既に支え合いを行っている団体さんの実践を紹介して頂き、みんなで共有していく、後半は実際にまだ元気だが、これから孤立しない為にも地域の中での繋がりを作っていく、色々な活動を繋げて応援していくような事の契機になるようなことを取り上げたらどうか。これも色々な人が色々な活動をしているので、目的を絞ろうという事になり、議論が出てきた中で今回は土をキーワードにした活動で、園芸や家庭菜園などに興味を持って活動している高齢者の方々の活動を紹介しながら、それをどうしたら元気に出来るかという、それを目的とした内容イベントを行いたいと考えている。

司会

ありがとうございました。それでは、各分科会からの報告が終了したので、5の全体の意見交換に移りたいと思う。キーワードとして、色々な分科会から出てきた言葉があると思う。例えばマップなどを通じた、地域資源の見える化。2つ目として、課題の整理・資源の把握。3つ目として、モデル事業について、アセスメントや住民の関わりについてなど。第2層の活動が9月から本格化する中で、第1層と第2層の連携についても今後取り組んでいかななくてはいけない。課題の整理とマップの部分については、市と、桐林さんで先行して昨年度から作成いただいているものがある。マップに関して、桐林さんから何かあればご報告をお願いしたい。

出席者

昨年、オブザーバーで参加させて頂き、市の高齢支援課で第1層協議体を担っていただいて

いたので、一緒に活動しながら作成させて頂いた。5 か所の地域包括支援センターの方々、社会福祉協議会の方、また地域のワークショップをコミュニティーエリアで開催していたので、その中で把握していった活動をまとめたもの。住民への配布が出来ないかなと考え、それぞれの活動の方々にも許可を得ながらまとめていった。表裏の構成。地域包括支援センターのエリアごとに5種類作成している。昨年度まとめきれなかったものを、第1層と第2層のコーディネーターへ今年度お渡しした。それと別に、それぞれの活動を少し細かく、誰がどんなふうにごどこで活動しているのかなど、問い合わせが出来るようにまとめた冊子も作成している。これはもともと地域包括支援センターの介護予防のアセスメントに使えるようなツールとして作成していたが、協議体ともリンクしてくるという事で、今年度は第1層、第2層のコーディネーターさんと相談しながら進めているところ。

司会

ありがとうございます。かなりの力作だと思う。更新をどうするのかというところで、協議体でも課題に挙がっていた。事業者向けは冊子という事になっていると思う。市民向けについてはオープンにできる部分があるので、第2層で検討。また分科会それぞれのものを作る必要があるかは、検討が必要。2点目の課題の整理については、平成27年度、2年前の資料で高齢支援課が、第1層の協議体で活動されていた時に、地域ワークショップで出た課題があり、第1層と第2層の役割分担というところで、ここでの検討を受けて分科会が分かれた。第1層の分科会がなぜ今のカテゴリーに分かれたのかというと、第2層の地域で解決できない問題を、第1層で検討したいという事で出来た。不足するサービスをどう創出していくのか、住民主体のサービスでどう作っていくのかを検討するため。地域で解決できなかった課題が載っているが、一部は解決できているのかどうか。

出席者

移動販売については、連光寺付近に行くような話は聞いた。

司会

止まっている時間が短くて利用できないという声もあったようだが。

出席者

色々な拠点を回っているので、こうした声が上がってしまっても仕方のないところなのかなと。

司会

京王さんとしては、住民からの要望も継続して聞いているところ。

団地でエレベーターが付いたという話があるが、ここ2年くらいでついたところはあるか？

出席オブザーバー

ここ2年はおそらくないと思うが、来年度永山あたりでエレベーター工事の計画はある。

司会

住民からの要望か。

出席オブザーバー

団地自治体の話し合いを受けてという事になっていると思う。

司会

団地が多い中でこちらも、こちらもとなった時に、優先順位などはあるのか？

出席オブザーバー

他の団地で話が出ているかどうかは把握していない。

司会

和田地区サロンの集まる場所についてはどうか？

出席オブザーバー

和田 3 丁目の所には 1 つあるが、エリア的には穴の開いている所。私達もこれから東寺方の自治会での居場所づくりについても話し合いで進めていく予定なので、サロンのないところに、地域の皆さんと一緒に居場所づくりをしていく予定。

司会

永山地区での支え合いの仕組みが作りにくいという事に関しては、淵野さん何か木下さんの見守り相談員などとは関係しているのか？

出席者

見守りをしてほしい人としてくれる人のマッチングを行っているので、そういう意味では仕組みを作っているという事になるのかな？

出席オブザーバー

こうした前段階があって、永山モデルに繋がっていった。

出席者

永山モデルでは、小学生と一緒に夕食を高齢者がご飯を食べるという事を行ってみたり、授業で高齢者の実情を覗いてみたい等、多世代交流も行いつつ、で支え合いの仕組み作りを行っている所。

出席者

この会議の目的は、分科会の現状と今期中でどう進めていくかの確認と、それぞれがどう協力していけるのかをまとめていく必要がある。基本的な話も必要だが、話し合いが必要。各分科会が色々な活動をしてきて、それについてお互いに色々見えてきたと思うので、そういったことについてのディスカッションをする場にはどうだろうか。それぞれの個別の課題については今後の分科会で議論頂けばよいと思うので、残された時間の使い方、実際に今後どう進めていくのかを固めていった方がよいと思う。

司会

では先程リーダーから居場所、移動・生活支援見守り、イベントと報告があったと思うが、それについて確認したいという所はあるか？

出席者

各分科会からの報告を聞いた。今年度の目標は何処に設定しているのか？このまま同じように話し合いを続けていくのか、教えて頂きたい。

出席者

もちろん、来年の3月までに何をやらなければいけないというような、行動目標としてはもっていいとは思いますが、でも、そう明確には出来ないかもしれないし、これが単年度の目標でないにしても、この活動が解散という事でもないと思うので、どういう方向に向かって仕事を構築しようとしているのかという所を共有できればいいと思う。先程の今までの活動の報告の中で、それぞれが目指す方向が出されていたと思う。もう少し共有出来たらいいと思う。先程上がった個別の課題について、一つの分科会で解決できない事については、全体に協力を頂く、そういう事に議論の重点を置いた方がいいのではないかと感じる。寺田さんのおっしゃる通り、明確な目標、大体の完成点といったところをもう少し共有していてもいいのかなと感じる。

司会

サロンは157か所を目標にということで、社会福祉協議会さんがサロンを作っているが、そこで出来ないことを検討していけないだろうか。

出席者

分科会の力には限りがあると感じている。ここは大勢の方が集まって協議をする場なのでもう少し大きなところのテーマを出していかないといけないと思う。それぞれの地域のやり方のままになって、従来を踏襲していますという事になってしまう。大きな生活支援というのはどういったものか、というところを話し合いが必要。そこから各分科会ではそれに対して自分たちは生活支援で何をイメージしたらいいのかを話し合っていける。イベントは、1月28日に向かって走っていけばいいのでいいと思う。移動にしろ、居場所にしろ、永山の仕組みづくりが出来ていないとか。私はサロンが介護予防に重点を置いているのか確認したい。そこに重点を置いているのであれば、(住民や事業者のニーズなどに応じて重点を置いているのであれば、)それはそれでいいが、生活支援でイメージを膨らませていくのであれば、それはどう展開となっていくのかを伺いたい。そうすると居場所としてどういう考え方をして皆さんに案内していけるのか、私ははっきりしてくると思う。社協さんは第2層で私は第1層ですよね。そのあたりの区分の仕方というか、範疇の捉え方などをはっきりして頂けると分かりやすい。

出席オブザーバー

今、社会福祉協議会で取り組んでいるサロン活動は、報告した通り年々増えてきている。それが介護予防の目的の為だけに行っているわけではないが、長い目で見ていくと、その活動が介護予防につながってきている。そういった居場所が月に1,2回で行われているものが多いが、週1回程度のペースで行われていくようになると、居場所としての機能が強くなって、介護予防のところにもつながっていくのかなと考えている。いま、分科会に参加させて頂いて、第1層の方では是非ご検討いただければと考えているのは、地域レベルでの展開の難しい居場所的なもの、例えば認知症の方々の居場所、認知症の方が増えてきているが、なかなか地域で受け入れというのが難しい。継続的に参加されている方の場合には対応できる

が、突然認知症の方がいらしたときには対応が難しい。一方でそうした方々の居場所づくりの確保は大切。ちょっとした移動が必要な場合、足がなくて参加できないという部分を検討いただくと、そうした活動と結び付けていけるのかなと感じている。

出席者

おっしゃる通り。今まで居場所に来ている方がだんだん落ちてきているのは支えやすい。要支援1・2は対象となるが、さらに対象が進んでいく場合には、専門職との繋がりが必要だ。私たちの素人集団は何もできない。専門職の方や移動の方と相談の場があるのか。徐々に落ちていく方に対しての連携の仕方、認知症で居場所参加を希望されている方の対応は大きな課題で、解決にはどうした方法があるのかこうした場で検討いただくとありがたい。

出席者

今の寺田さんのお話は非常に重要なところがある。今のお話しの中でわかっただけでも三つの大事な軸がある。一つは本当に支援を必要としている生活支援の所に重点を置くのか、介護予防のあたりまで大きなくくりで広げて生活支援をするのか、もしそうだとするとどういうつながりがあるのか。二つ目は狭い地域の中で、地域完結型で出来ることと、広域でやらなければいけない事、の平面的な連携をどうするのかについて、三つ目は活動がアマチュア主力で行っているが、専門職種のサポートや質を必要とした場合に、受けるにはどうしたらよいか。職種間の連携をどうとっていくのか。残された時間は少ないが、この三つの軸はとても大事な論点だと感じる。生活支援か介護予防なのかという事については、当初から寺田さんと議論しているところだと思うが、居場所とか移動は、かなりある程度進んできて、要支援・要介護の段階になった方々をどう支えるのか、ということについては、まさにこの事業の主軸部分だと思う。その中で要支援・要介護に至る前段階の介護予防をどのようにしていくのか、ということも入れないと、活動としてもつまらないし、広がりもない。その部分をどううまくつなげていくのか。サロンでも元気高齢者の活躍はとても大事なもので、それはまさに介護予防にもつながる。そうした軸でも問題の整理が非常に大切。空間的にはわからないが、医師会の立場からすると、医師会・看護師・理学療法士・作業療法士などプロフェSSIONALがいるが、その人たちが地域の活動を惜しみなく支援したいという気持ちはあると思う。それをどう繋げていくのか、繋がっていないところが大きな問題だと思う。こうした時にはどうしたらいいのかという問題点を、医師会・看護師会・薬剤師会など職種もそれぞれ組織が出来ているので、そういったところで協議が出来ていけば、今の問題点は一つ解決の方向に向かうのではないかと。

出席者

一つ、分かりやすく事例を紹介させて頂く。福祉亭に通って下さる方で、機能が落ちてきている。いつもタクシーでお帰りになる方がいらっしゃる。いつもタクシーが手を焼く状態で、1社はお断りをされてしまった。次もちょっと送迎が必要という事になると、例えば、移動の仕組みならこうした事があるよ、とか支えるよとか簡単に例えば電話一本でとか、簡単にできる仕組みがあるといいなと感じている。年会費払いましょうとかこれをしましょうな

どと、様々な段階を踏まなければいけないとなると、それならタクシーへ頭を下げればさしあたってはいいものなので、それでいいかと思ってしまう。地域包括支援センターへもご相談をしながらの方ではある。なんとかもっと簡単に現場で解決して頂けるような手段とか機会とか時間とか作れないかと。

司会

移動の話も出たようだが、杉本さんから何かあるか？

出席者

専門家の方という事で、私達は福祉有償運送だが、今回は助け合いで移動をというところで、助け合いの移動を創出するという事と、今寺田さんがおっしゃった困った時に助けてくれる移動というのはちょっと質が異なると感じている。京王さんとかURさんとか企業さんも含めて協議体があるので、例えばタクシー会社さんの皆さんに、そうした研修を受けて頂くなど。運転はプロだと思うが、福祉的なところでは研修などはないところもあると思う。まちづくりと考えた時には、何もかも助け合いで解決しようというものではなく、今ある資源を少し活用しつつ、具体化するという事を考えていけば、寺田さんがおっしゃったことも可能なのかもしれない。助け合いという点で、今訪問Bを行なっているが、介護保険に準ずるという事で、サポーターさんはとても戸惑っている。今、専門家がやっている介護保険の内容なので、サポーターさんはもっと何でもやってあげたいというところで戸惑いがある。助け合いというのはどこまでか。地域で顔の見える関係なら、何かトラブルがあっても解決できるかもしれないし、その辺は、どういう事があるのか分からない。どんなふうに乗れないのかも分からないので、何もかも協議体の中で地域の助け合いで作りに出していこうというのではなく、もう少しプロの方々などにも何かしら役割を持っていただきながらという事でもいいのではないかと思う。

その話と異なるが、次回の移動分科会では、地域の中で移動サービスらしきものをやっている方があれば探してこようという宿題が出ている。これは法律の問題もありますので、個人でやっというが団体でやっというがちょっと公にすることが出来ないのでは、心当たりのある方は田中さんまで教えて頂けたらいいなと思っている。

司会

移動として何かというところは大丈夫か。

出席者

先程お話した内容で良いか。何か違うのではないかという事があれば、分科会に出てきていただいて、お話に加わって頂ければと思う。

出席者

桐林さんが出してくれた地域資源の冊子は、地域包括支援センターが持っていた情報か。

出席者

地域包括支援センター、社会福祉協議会、ワークショップと私が直接団体などに聞いた情報。

出席者

すごく良い資料だと思う。これは公にするのには了承を得ているのか？

出席者

社会福祉協議会のサロンは個別に許可が取れていないが、それ以外の住民の活動についてはそれぞれ私がまわって、説明を行い、こうしたものを作成した場合に乘せても良いかどうか了承を得ている。

出席者

折角集まるので、ここで何をするかというと、自分たちの分科会では解決できない問題について議論をしてはどうか。あらかじめ問題を持ち寄ってくれば、常に議題があるので、実のある全体会議となると思う。検討の主体はそれぞれの分科会なので、分科会の考えを共有するということが良いと思う。予算を使う事であれば相談が必要だが。次回以降はこうした事に充てることと、今この場で是非これは他の分科会にも協力頂きたいという事があれば。例えばイベントとしては運営や PR などにご協力をお願いしたいという具体的な事があるが、他にもあればおっしゃって頂きたい。

出席者

共通の住民同士の話し合いの場やマップにしても、生活支援の中で作成していいのか、一緒に作った方がいいのか。もし一緒の方が良いようであれば、どのような方向で作っていくかをそれぞれの分科会で話し合ってもらって、それを全体での共有が必要かなと感じている。地域住民の話し合いの場のリサーチや、話し合いの場を作るのかということも一緒に考えて頂きたいという事もあるので。

司会

足並みは揃えた方が良いと感じている。生活支援の事で進め方はあるか。

出席者

どのようにニーズを住民同士からとるかなというところ。どうやって住民同士の意見交換の場をどう持つか知りたかった。最初は別々で作成してもと感じていたが、やはり一緒のものにした方が良いのではと個人的には感じている。次の分科会に入る前に話が出来ればと思った。

司会

一緒にというのは、サービスなどが1枚にまとまっている方がいいのか、カテゴリー的に分かれている方がいいのか。市民向けという事になるが。

出席者

市民向けには1枚の方が良いと思う。

出席者

1枚の方が良いと思う。活動が一枚に乗ると、やっている団体さんにとっては勇気も出るし連帯感も出るのでは。

司会

次の分科会で私から提案させて頂き、方向性としてご報告させて頂く。

本日、まだご発言されていない方で、これだけは発言したいという事があれば。
鶴岡さんお願いする。

出席者

久しぶりに協議体に参加させて頂いた。今年は居場所の分科会へ参加させて頂いている。昨年は移動の分科会に参加させて頂いていた。居場所の分科会に出席して感じたのは、皆さん現場で活動されている方々なので、第1層と第2層の境界線が見えずらくなっているなどという事。午前中に社会福祉協議会の会議へ参加してきた。多摩市内に居場所が非常に多く存在しているのは確かだと感じた。そうした中で、新たに第1層の協議体の居場所で作っていくのかとなった時に、第2層の地域レベルの居場所を整備していくというのは方向性が違うのではないかなと感じた。サロンが実際にどう活動していて、どこにあるのかを地域にしっかりと周知していく事が必要なのかなと感じた。サロン活動に参加したいとなった時に、どういう形で移動支援ができるのか。第1層のレベルで拠点的に確保するとか、駅の周辺とか商業施設など、どうした居場所が良いのか、から考えていったらいいのかなと感じた。いずれにしても、分科会の中では活発に議論されていて、全体の議論に繋がっていけばよいと感じた。

出席者

麻の葉へ自力で来られない方が、訪問Bと一緒に来られないかとか、お買い物とかに出していただければとか考えていた。移動の方にも居場所の分科会に来ていて抱けたらいいねというお話はした。まだイベントの詳細は決定していないかと思うが、事例紹介で花壇に水やりなど高齢者のボランティアポイントで行っている方がいるので、紹介させて頂ければと思う。

出席者

今回ヤマトさんのチラシを拝見して画期的だと感じた。サロンが79から82も増えたという事だが、サロンの活動はなかなか中身が見えない、周知するといっても文書は4割程度しか使わない。そうした事を考えると、サロン同士の交流会が年に1度くらいはあればいいのかなと感じた。サロンもこんな活動があるのかと感じるし、楽しいという事が伝わって自分でもやってみようかなと感じてくれたら良いと思った。近隣の方も楽しいから参加しようと感じてもらえることが大切なのではないかと感じた。

司会

時間になってしまったので、話し合いが出来ればと思っていたが、時間が無くなってしまった。次回分科会のそれぞれの日時を一覧表にしているので、ご都合のつく方は足を運んでみてほしい。次回は12月4日(月)14:15~16:15で開催させて頂く。場所は市役所を手配予定。追ってご連絡する。丹さん最後に。

出席オブザーバー

分科会をしっかりとやられていることに敬意を表します。協議体の会議が年に3回程度あると思うが、ほかの自治体でその全体会議の合間に手弁当で分科会をしっかりと開催してい

いるところはあまり聞かない。分科会でしっかり提案まで行われている。そもそもこの分科会に目的は一昨年に行われたワークショップの課題の解決のためにはじめられた分科会での提案という事で、素晴らしいと感じる。この提案を今度は地域で再度ワークショップに返していくという事になるだろう。来年度の具体的などころにつなげていくのが次のステップなのかなと感じている。是非ワークショップで戻して欲しい。

司会

以上で、閉会する。

(閉会時刻：16時00分)